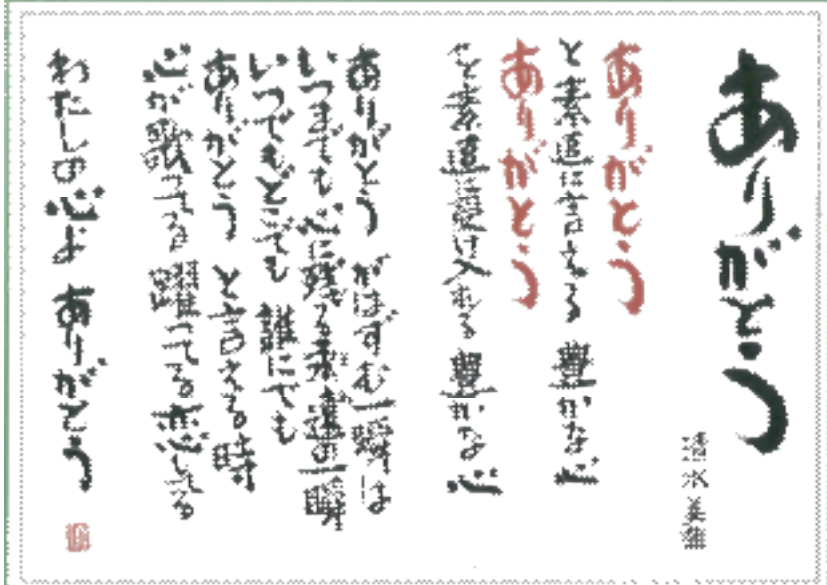




立春「暦の上で一年の始め、春の始めとされ、暖かくなりはじめる。」

落合勲先生の「こころの文字 二十四節氣」より



こころの文字 落合 勲 書画

ありがとうの言霊(ことだま)

明元素 10カ条

- 第1条 めげないぞ ピンチはチャンスだ 明るい人生
- 第2条 いつも明るくすてきな笑顔 暗病反をふっとばせ
- 第3条 元氣な挨拶 心のエール いつでも私が仕掛人
- 第4条 んんとなんと仕事して 達成させようわれらの戦略
- 第5条 空は広いぞでっかいぞ 現状打破でがんばろう
- 第6条 相手は私の鏡と思っていれば腹もたたない頭にこない
- 第7条 病氣になったらゆっくり休め 一病息災 陽転思考
- 第8条 良くも悪くも生き方しだい 自分が主役だこの人生
- 第9条 打たれて強く逞しく 勇氣百倍 元氣百倍
- 第10条 楽しい氣分で 楽しい毎日 いつも私は明元素

明元素(めいげんそ) ... 明るく・元氣で・素直で素敵

暗病反(あんびょうたん) ... 暗くて・病的で・反抗的

楽喜健(ラッキーけん) ... 楽しく・喜び・健やか・健康

使充爽(しじゅうそう) ... 使命感・充実感・爽快感

三方よし
ありがとう
Our Company

温故知新
近江商人の家訓・経営理念に学ぶ
<<三方よし>>
「売手よし 買手よし 世間よし」

感謝の氣持ちは社会のために
お客様に立つて、いい商品をお客様が満足できる価格で提供し、真心を込めて販売することは、商売の本筋です。しかも売った側も正当な利益が得られることが商売です。これはどの商人も共通に心がけていたことです。近江商人と呼ばれた人々は、さらに「世間よし」という理念を常に持っていました。つまり、売る人、買う人、双方が喜ぶという行為の上に、さらに社会的に正当な商売をすることを、彼らは共通の商売の理念としていたのです。昨今、

企業倫理の凋落ぶりに対して、社会の非難や批判が大きくなってきていますが、近江商人は社会的な基本倫理を侵すことなく、商いを継続してきたことで、現在もその理念や商法が手本とされているのです。「感謝の氣持ち」を基盤として形成されてきた近江商人の基本行動の中から、現在の商売に活用できる多くのことを学んでいただきたいと思えます。
(「近江商人に学ぶ」
サンライズ出版から引用)

ありがとうブーメラン

「すみません」
「どうも」
「まいど」
「ごころさま」
「失礼しました」
「以上です」
「お疲れさま」
「ありがとう」って
なかなか言えないけれど
「ありがとう」って言ってみると
「ありがとう」は
本氣で相手に届き
必ず あなたに
「ありがとう」と戻ってくる

(小林弘和著「ありがとうカンパニー」より)

